

随筆

作者の体験・考えなどを自由に書いたもの。
有名人が出す本。

枕草子

清少納言（作家・歌人） 平安中期

内容は日記・類聚（るいじゆ）・随筆

日記 中宮定子に仕えた話。

賢い言動が出てきて、おお！ってなる。

それを言うのは、清少納言か中宮

類聚

テーマごとに感じることを書いてる。

「鳥はー」「美しきものはー」

随筆 自然などについて思ったことを書いている。

※春はあけぼの、やうやう白く

方丈記

鴨長明（歌人・随筆家） 鎌倉初期

世の無常を説く。

※行く川のながれは絶えずして、

※説話「発心集」歌論「無名抄」も著している。

徒然草

兼好法師（僧侶） 鎌倉末期

無常観、儒教思想、王朝懐古など、思想が多元的

※つれづれなるままに、日暮らし、

折たく柴の記

新井白石（政治家・学者） 江戸中期

自分の生い立ちや家族など、当に随筆。

玉勝間

本居宣長（学者） 江戸後期

文学や史学など、学問研究法や、自己の体験。

花月草子

松平定信（政治家） 江戸後期

人事、風物などの感想。

物語

歌物語（和歌が元ネタになっている。）

伊勢物語 未詳 平安前期

男の一代記。（在原業平と思われる。）

大和物語 未詳 平安前期

前半は歌物語、後半は説話

平中物語 未詳 平安中期

恋愛話。平貞文という男と様々な女との恋愛。

↓「威勢のいい大和くんがヘイチューハイと歌歌う。」

作り物語（ファンタジー）

竹取物語 平安前期

今は昔、竹取の翁というものありけり。
かぐや姫。

宇津保物語 未詳 平安中期

前半はことの秘曲伝授。後半は求婚物語。

落窪物語 未詳 平安中期

継子いじめ物語。

継母にいじめられた姫君を貴公子が救う。

継母は復讐を受けるが、最後にはみんなhappy end

↓竹を取りにうっほっほと行ったら窪みに落ちた。

源氏物語 紫式部 平安中期

日本文学最高の長編物語。
光源氏という超絶イケメン貴族がいろいろな女性と恋愛をしていく。どんなに可愛くなくても、女性を大切にす。最高&最高なので、この後の物語に多分に影響を与える。

狭衣物語 未詳 平安後期

狭衣大将と従妹の恋愛を中心とし、様々な女性との恋愛と描く。

夜の寝覚（夜半の寝覚） 未詳 平安後期

中の君と中納言がお互いを思いながらも、運命に翻弄される。

浜松中納言物語 未詳 平安後期

浜松中納言が唐に行つてそこで恋愛をし、日本に帰つてからも、恋愛をする話。

篁物語 未詳 平安後期

小野篁という歌人の伝承をもとに書かれたもの。

堤中納言物語 未詳 平安後期

短編集。10の短編が、四季の順に並べられている。

とりかえばや物語 未詳 平安後期

ある大将の兄妹が、兄が女性、妹が男性として育てられる。女装の兄と男装の妹が成長して、色々あつてそれぞれ元の性に戻る話。

住吉物語 未詳 鎌倉前期

継子いじめ。
古本「住吉物語」のリメイクだと言われているが、伝わっていない。

歴史物語・実際の歴史を物語風に語る。

実話を元にしたドラマのようなもの

栄花物語 未詳 平安後期 編年体

59代宇多天皇〜73代堀河天皇までの約200年。
藤原道長の栄華を中心していて、とにかく褒める。

大鏡 未詳 平安後期 紀伝体

55代文徳天皇〜68代後一条天皇までの176年。
おじいちゃん同士が会話の中で昔を振り返る形式で進む。栄華と同じ時代だが、褒めるだけじゃなくて批判もあり。

今鏡 未詳 平安後期 紀伝体

68代後一条天皇〜80代高倉天皇までの146年。
大鏡のおじいちゃんの孫娘が、人々に語る形式。

水鏡 中山忠親か 平安後期か 鎌倉初期 編年体

初代神武天皇〜54代仁明天皇までの1510年。
仙人に聞いた昔話を老尼が書くという形式。

増鏡 未詳 南北朝期 編年体

82代後鳥羽天皇〜96代後醍醐天皇まで150年。
老尼が若い女房に語った回想を記録する形式。

鏡四つを『四鏡』と呼ぶ。

※編年体 年ごとに起こったことを記録する。

メリット 時系列でわかる。

デメリット 複数の出来事が並行する。

紀伝体 できごとをベースに記録する。

メリット イベントごとだから、わかりやすい。

デメリット 時系列がごちゃごちゃする。

歴史書・・・歴史を書いた本。

古事記

太安万侶 奈良時代

日本の歴史を物語や伝説なども盛り込み記録。
天皇が神の子孫だという歴史を書く。

日本書紀

舍人親王 奈良時代

日本の歴史を正確に記録。
中国に献上する目的もあったので、
伝説ではなく、事実ベース。

愚管抄

慈円 鎌倉初期

日本の政治の変遷を末法思想と道理の理念で
説明しようとしている。

神皇正統記

北畠親房 室町―南北朝時代

神代から後村上天皇までの歴史を述べ、
南朝の正当性を強調。

古事記伝

本居宣長 江戸

古事記の注釈書

軍記物語

保元物語

未詳

鎌倉前期

保元の乱の顛末を和漢混交で記す。貴族の皇位継承の争いに、傭兵的に武家を雇い戦闘に。その結果、武家が政治に参加するように。

平治物語

未詳

鎌倉前期

平治の乱を簡潔な和漢混交で記す。平家の勝利と、源氏の敗走を書く。

保元の乱・平治の乱

1156年（保元1）と1159年（平治1）に京都で相次いで起こった内乱。いずれも宮廷内の権力争いに原因があり、短期間の戦闘で勝敗が決したが、武士の時代の到来を告げ、平氏政権が成立するきっかけとなった。

平家物語

信濃前司行長か

鎌倉初期

平治の乱で勝利を収めた平清盛が栄華を誇る。琵琶法師によって「平曲」として広まった。平家の栄華。

太平記

小島法師か

南北朝期

後醍醐天皇の倒幕計画から、建武の新政、南北朝の分立、室町幕府の紛争までを記す。

曾我物語

未詳

南北朝期

曾我兄弟が父を討つ話。曾我物として敵討ちの似た話が数多く作られる。

義経記

未詳

室町前期

源義経の幼年期と、追放された後の話。判官物として、義経を主題とした作品が多く作られる。後世に影響。

日記

土佐日記 紀貫之 平安初期

最初のかな日記。かなは女文字であったので、仮名を使うために、筆者は女になりました。「男もすなる日記というものを女もしてみむとてするなり。」

蜻蛉日記 藤原道綱母 平安中期

藤原兼家との結婚生活を息子道綱への愛を21年女流日記。

和泉式部日記 和泉式部 平安中期

筆者と敦道親王との恋の顛末。歌も多い。

紫式部日記 紫式部 平安中期

中宮彰子につかえる女房であった筆者の宮廷生活。

更級日記 菅原孝標女 平安後期

源氏物語に憧れる幼少期。苦勞の多い中年期、仏道修行の晩年期。中流貴族の典型的な一生が綴られている。

讃岐典侍日記 藤原長子 平安後期

堀河天皇に典侍として寵愛を受けた筆者の日記。

建礼門院右京大夫集 世尊寺伊行の娘 鎌倉初期

筆者の平資盛との恋愛と決別を中心とする。日記ではなく、私家集と分類されることも。

十六夜日記 阿仏尼 鎌倉初期

京から鎌倉への旅日記。鎌倉での滞在記。

とはずがたり 後深草院二条 鎌倉後期

後深草院の御所を中心に、寵愛を受けた筆者のさまざまな恋愛模様。後半は諸国行脚の懺悔修行の生活。

和歌集

万葉集 大伴家持 奈良時代

八代集（勅撰和歌集） ↓ 天皇の命令で作られたもの。

古今和歌集 紀貫之・紀友則・壬生忠岑・凡河内躬恒

後撰和歌集 梨壺の五人（清原元輔含む）

古今の後に選ばれたから後撰

拾遺和歌集 藤原公任？花山院？

後拾遺和歌集 藤原通俊

金葉和歌集 源俊頼

詞花和歌集 藤原顕輔

千載和歌集 藤原俊成 ここまで平安

新古今和歌集 藤原定家ら 鎌倉時代

↓ 「古今・後撰」

「拾遺・後拾遺」

「金葉・詞花・千載」

「新古今」のリズムで覚えよう。

私家集

和泉式部集 和泉式部

山家集 西行

金槐和歌集 源実朝

説話Ⅱ昔話

仏教説話…戒律で生活態度を戒めようとする。
世俗説話…日常処世のありよう、心のもちよう。

日本霊異記 景戒 平安前期
日本最古の**仏教説話集**。因果応報の説話。

今昔物語集 未詳 平安後期
すべて「今は昔」で始まる。話の数最大。
仏教説話・世俗説話

古本説話集 未詳 平安後期
前半は和歌説話、後半は**仏教説話**。

発心集 鴨長明 鎌倉前期
世俗説話。

宇治拾遺物語 未詳 鎌倉初期
世俗説話。現実的で合理的な話。庶民的。

閑居友 慶政上人 鎌倉前期
仏教説話。随筆的面もあり。

今物語 藤原信実 鎌倉中期
世俗説話。平安から鎌倉の説話53話。

十訓抄 六波羅二藤左衛門 鎌倉中期
世俗説話。十条の徳目を挙げ、それにふさわしい
説話を集めている。

古今著聞集 橘成季 鎌倉中期
世俗説話。平安から鎌倉の説話。700話。

撰集抄 未詳 鎌倉中期
仏教説話。120話。

沙石集 無住 鎌倉中期
仏教説話。実話に基づくものもあり。